

オアシス21 ハマナス療養棟

症 例 概 要 90代 女性 要介護度2

病名：慢性関節リウマチ、慢性腎臓病

入所までの経過：R4年9月、昼夜逆転・寒がり・左膝痛・閉じ籠り・介護サービス導入困難のため、生活リハビリと在宅サービス調整目的に入所するも、1か月後に原因不明の熱発あり、肝腫瘍の診断にて入院加療。

R5年2月に再入所され、R5年12月頃から被害的、易怒的な状態となり、拘り言動が増えて同室者への不満が表出し、精神面の観察を要していた。

内 容

再入所後、コロナ感染予防対策が緩和され、令和5年5月からはコロナが5類に分類され、入退所調整が通常に回復しました。それに伴い、療養棟における利用者さんの出入りも増加していました。

令和5年12月頃より、寒さや環境（換気・ベッド位置）への拘りが強まり、同室者への不満が表出し、精神面の観察が必要な状況となり、令和6年9月には、被害的な言動が増加し、易怒的な傾向が見られるようになりました。このため、医師の診察を経て精神科を受診しましたが、「被害妄想」「認知機能障害」との診断には至らず、ご家族もとても心配されていました。

被害的・易怒的な言動に対して職員が部屋替え、ベッド位置変更、換気扇を使用した換気など、症状の緩和に努めてまいりましたが、意欲低下や引きこもりの傾向は変わらず強いまでした。

令和6年2月、職員によるお琴演奏会の企画があり、介護職員から、以前行ったお茶会イベントでご本人が「お茶の先生」をしていたことを思い出し、お琴演奏会とお茶会をコラボレーションする提案があり、栄養科に協力を依頼し、コラボ企画を実現させました。

ご本人はお花の先生もされていたため、お琴演奏会に花手水を用意する提案も行いましたが、関心を示されず引きこもりの状態でしたが、お茶の提供があることを伝えたところ、参加への転換に成功しました。

お琴の演奏の後、職員がお茶を立ててご利用者にふるまったところ、お茶の作法についてご本人より手ほどきを受けることが出来ました。

ご本人の姿勢や手ほどきの態度から、かつてご主人が僧侶であり、檀家さんへのおもてなしをしていた様子を伺うことが出来ました。

このイベント後、寒さや環境に対する拘りが減少し、活動への参加が増加することができ、ご家族へ報告すると「色々と気を遣ってもらいありがとうございます。今後もよろしくお願いします。」と、とても喜んで

いました。

ご利用者の人生背景を知り、その性格を尊重した関わりを行うことで、生活の質を向上させることができたと考えております。